

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこのたび、下記項目の検査受託を開始することとなりましたのでご案内いたします。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく、今後とも検査の新規拡大に努めてまいります。

敬具

記

新規受託項目

- [13008] クロストリジオイデス・ディフィシル GDH抗原・毒素検出

受託開始日

- 2023年4月1日(土)

(お知らせ)

[02939] クロストリジオイデス・ディフィシル毒素検出 (Toxin A・B) は、INFORMATION (22-41)にてご案内のとおり、2023年3月31日(金)をもって検査受託を中止させていただきます。



クロストリジオイデス・ディフィシル GDH抗原・毒素検出

クロストリジオイデス・ディフィシル (*Clostridioides difficile*) は、偏性嫌気性のグラム陽性桿菌で抗菌薬関連下痢症・腸炎の主要な原因菌のひとつです。また、芽胞形成菌であるため、アルコール消毒等が無効であるばかりでなく、多くの抗菌薬に耐性を示し集団発生も起こしやすく、院内感染対策においても注意が必要です。

クロストリジオイデス・ディフィシル感染症 (CDI) は主に、すでに *C. difficile* に感染している患者への抗菌薬使用により、消化管微生物叢が攪乱され菌交代が起こることで、腸炎等を引き起こします。病原性を持つ毒素である toxin A と toxin B によって発症するため、CDI 診断には毒素の検出または遺伝子検出法によって行われます。

本検査は、糞便中の toxin A および toxin B に加えて *C. difficile* 抗原とよばれるグルタミン酸脱水素酵素 (GDH) を検出します。GDH は毒素産生の有無にかかわらず多く産生されており、GDH 抗原検出は培養検査と高い一致率を示します。毒素と GDH 抗原の結果を組み合わせることで、CDI の診断または CDI の否定が可能です。なお、GDH 抗原が陽性 (+) で毒素が陰性 (-) の場合は、高感度な遺伝子検出法による確認が診療ガイドラインで推奨されています。

検査要項

項目コード	13008
検査項目名	クロストリジオイデス・ディフィシル GDH抗原・毒素検出 ^{*1}
検体量	糞便 1g ^{*2,3} [容器番号：29番]
保存方法	冷蔵
検査方法	イムノクロマトグラフィー法
基準値	GDH抗原 (-) 毒素 (-) ^{*4}
報告様式	抗原 (-) 毒素 (-) / 抗原 (+) 毒素 (-) / 抗原 (+) 毒素 (+) / 判定保留 ^{*5} / 判定不能
所要日数	2～3日
検査実施料	80点 (「D012」感染症免疫学的検査「12」クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性)
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)
備考	<p>*1：ご依頼の際は、『微生物学検査依頼書』をご利用ください。</p> <p>*2：検体量の目安は、液状便で1mL、固形便で小指大です。</p> <p>*3：細菌検査用スワブでのご提出は避けてください。</p> <p>*4：toxin A・toxin Bの区別はできません。</p> <p>*5：検体を再採取の上、再度ご依頼いただくことをおすすめします。</p>

高感度なリアルタイムPCR法による [27460] クロストリジオイデス・ディフィシル毒素遺伝子検出も併せてご利用ください。なお遺伝子検出法は必ず専用検体でご提出ください。

参考文献

西尾美津留, 他: 医学検査 63 (5): 635-639, 2014.

日本化学療法学会・日本感染症学会: *Clostridioides difficile* 感染症診療ガイドライン2022.